

(資料)

## 「生徒指導論」受講者自身の中学・高等学校での 生徒指導上の問題の体験

田 村 隆 一\*

### I. 問題と目的

筆者は私立の総合大学において教職課程科目の「生徒指導論」を担当している。授業の中では、各回の最後に授業に対するコメントや質問を求めている。従来はいわゆる「ミニツツペーパー」として、小さな紙にコメント等を書かせて、次回の授業の冒頭にフィードバックを行っていた。また、生徒指導上の問題（いじめや不登校など）に対して、受講学生が中学生あるいは高校生の時にどのような体験をしたか、どのようなことを目撃したかなどを講義中に問いかけて、その回答を基にして授業を展開することが多かった。

数年前から授業の効率化や必要な資料の配布を行うために、授業支援システムの Moodle (<https://moodle.org>) を用いている。Moodle はオープンソースのソフトウェアであり、筆者の勤務する大学では教員が授業等で使用できるよう設定されている。講義室には無線 LAN が整備されているので、学生にはスマートフォンやノートパソコンなどを用いて、授業中に Moodle のサーバーにアクセスさせている。Moodle 上で授業のコメントや感想を書き込ませることは、コメント等が文字データとして保存されるために、加工が容易であり、授業中にコメントの一部を表示させながら解説することが可能である。授業中に回答させたものを、その場で見せることもできる。

---

\* 福岡大学人文学部教授

これまで各授業時間の最後にコメントを記入させて、次の授業で活用する形を採っていたが、授業の中で書かせたものをその場で表示するほうが、学生の学習意欲を高めるのではないかと考え、いくつかのテーマについて中学・高校時代の体験を聞き、それをその場で授業に利用することを試みた。当初は、電子的に処理することは、単に紙媒体と電子媒体の違い、即時のフィードバックか1週間後のフィードバックかの違いでしかないと考えていた。学生に対する発問や、学生の記述の口頭での読み上げに比べると、多くの学生の回答を画面上で文字を表示できること、簡単な調査の集計が即座にできることは、思いがけず学生の授業への高い関与を引き出した。これまでのミニッツペーパーへの記載よりも、具体的な記述が増えたと感じた。

本稿では、授業の中で得られた記述や調査結果を示しながら、学生が学校現場で体験した生徒指導上の問題を明らかにするとともに、生徒指導における課題を整理し、教職課程における生徒指導の授業での工夫について論じることとする。

本稿で提示する資料の収集にあたっては、授業および研究に活用することが目的であること、答えたくない質問には答えなくてよいこと、答えた内容によって回答した学生が不利益な扱いを受けることは一切ないことを説明した。

## Ⅱ. 方法

### 1. 対象

大学で教職課程科目の「生徒指導論」を受講している学生（科目登録者数：96名）。3年次配当科目のため学年は3年次以上。

### 2. 手続き

授業中に、スマートフォンやタブレット等のインターネットに接続可能な機器によって大学内に設置された Moodle サーバーへアクセスすることを求めた。Moodle 上に設定された「課題（あるテーマについて、自由記述を求める形式の質問）」または「フィードバック（選択肢および自由記述が可能な形式の質問）」を用いて、回答を求めた。

## Ⅲ. 結果と考察

### 1. 生徒指導上の問題に対する経験の調査

有効回答は81名（授業登録者数に対する回答率：84.4%）であった。回答は、心理的な負担を伴う可能性もあるので、その心理的影響について説明した上で、「回答した

くない場合は回答しなくてもよい」「無理に書かないように」との教示を加えた。また、自分自身に関係する質問については、それぞれの質問の後に、「回答したくなければ回答しなくてもかまいません。」「書きたくないときは無理に書かないでください。」との記述も加えている。質問項目の番号が連続していないのは自由記述部分の記載を省略したためである。自由記述に関しては後述する。

### (1) 不登校に関する経験

学生自身の不登校経験は延べ4名である。ここでは、文部科学省で学校基本調査等での不登校の基準である「年度間に連続して30日以上欠席」ではなく、3日以上として聞いている。文部科学省（2018）の調査では連続30日以上の中学生の不登校の割合は3.0%である。本調査は、実態調査としてではなく、授業の資料として行ったものである。不登校あるいは不登校傾向であった学生が、どの程度身近に存在するかを明らかにするため、3日以上という形での質問を行っている。そのため、文部科学省の調査と比較することは直接的な意味を持たない。

不登校の生徒が同じクラスにいたかを問う質問には、69.1%の学生が「はい」と答えている。多くの学生にとっては珍しくない問題として不登校をとらえていると思われる。

Table 1 A1-1：中学校で不登校（3日以上）の経験はありますか？

回答	人数	割合（%）
いいえ	78	96.3
はい	3	3.7
無回答	0	0.0
計	81	100.0

Table 2 A2-1：高等学校で不登校（3日以上）の経験はありますか？

回答	人数	割合（%）
いいえ	80	98.8
はい	1	1.2
無回答	0	0.0
計	81	100.0

**Table 3 A3-1：中学校または高等学校で、同じクラスに不登校になった生徒（自分以外）はいましたか？**

回答	人数	割合（％）
いいえ	24	29.6
はい	56	69.1
無回答	1	1.2
計	81	100.0

**(2) いじめに関する経験**

中学校では12.3%、高等学校では1.2%がいじめを受けたと答えている。経験者のうち教師に伝えたのは約半数である。加害経験については、中学校では6.2%、高等学校では1.2%となっている。

**Table 4 B1-1：中学校でいじめを受けた経験はありますか？**

回答	人数	割合（％）
いいえ	70	86.4
はい	10	12.3
無回答	1	1.2
計	81	100.0

**Table 5 B1-3：「はい」の方にお聞きします。いじめを受けたことを担任や他の教師に伝えましたか？**

回答	人数	割合（％）
いいえ	6	54.5
はい	5	45.5
無回答	0	0.0
計	11	100.0

Table 6 B2-1：高等学校でいじめを受けた経験はありますか？

回答	人数	割合（％）
いいえ	77	95.1
はい	1	1.2
無回答	3	3.7
計	81	100.0

Table 7 B2-3：「はい」の方にお聞きします。いじめを受けたことを  
担任や他の教師に伝えましたか？

回答	人数	割合（％）
いいえ	1	100.0
はい	0	0.0
無回答	0	0.0
計	1	100.0

Table 8 B4-1：中学校であなたがいじめを行った経験はありますか？

回答	人数	割合（％）
いいえ	74	91.4
はい	5	6.2
無回答	2	2.5
計	81	100.0

Table 9 B5-1：高等学校であなたがいじめを行った経験はありますか？

回答	人数	割合（％）
いいえ	79	97.5
はい	1	1.2
無回答	1	1.2
計	81	100.0

### (3) 学校内暴力の経験

暴力を行った経験は、中学校で 12.3%、高等学校で 2.5%、目撃経験は中学校、高等学校ともに 39.5%だった。

Table 10 C1-1: 中学校であなたが他の生徒や教師に暴力をふるったり、学校でものをわざと壊したりした経験はありますか？

回答	人数	割合 (%)
いいえ	70	86.4
はい	10	12.3
無回答	1	1.2
計	81	100.0

Table 11 C2-1: 高等学校であなたが他の生徒や教師に暴力をふるったり、学校でものをわざと壊したりした経験はありますか？

回答	人数	割合 (%)
いいえ	77	95.1
はい	2	2.5
無回答	2	2.5
計	81	100.0

Table 12 C3-1: 中学校で他の生徒が他の生徒や教師に暴力をふるったり、学校でものをわざと壊したりした経験はありますか？

回答	人数	割合 (%)
いいえ	47	58.0
はい	32	39.5
無回答	2	2.5
計	81	100.0

#### (4) 喫煙、飲酒、薬物・物質乱用に関する経験

未成年における喫煙経験は12.3%、飲酒が34.6%であるが、自由記述の内容を見ると、多くは一時的なものと思われる。薬物・物質乱用については、本人の経験は聞いていない。周囲での乱用者の目撃については、4.9%が経験している。これらの回答においては、反社会的行動も含まれることから、実際よりも低い値が出ている可能性はある。

Table 13 D1-1：あなたは未成年の時にタバコを吸った経験はありますか？

回答	人数	割合 (%)
いいえ	69	85.2
はい	10	12.3
無回答	2	2.5
計	81	100.0

Table 14 E1-1：あなたは未成年の時にお酒を飲んだ経験はありますか？

回答	人数	割合 (%)
いいえ	51	63.0
はい	28	34.6
無回答	2	2.5
計	81	100.0

Table 15 F1-1：あなたは中学生や高校生の時に知っている人で、  
麻薬・覚せい剤などの違法薬物、シンナー・ガスなどの  
薬物乱用をしている人はいましたか？

回答	人数	割合 (%)
いいえ	77	95.1
はい	4	4.9
無回答	0	0.0
計	81	100.0

#### (5) 自殺に関する経験

知っている人が自殺した経験が11.1%、希死念慮の経験は12.3%となっている。後で示す自由記述の内容を見ると、実際にはこれより多くの学生が身近に自殺を経験している可能性が高い。

**Table 16 G1-1：あなたは中学生や高校生の時に知っている人で、自殺した人はいましたか？**

回答	人数	割合 (%)
いいえ	71	87.7
はい	9	11.1
無回答	1	1.2
計	81	100.0

**Table 17 G2-1：あなたは中学生や高校生の時に、自殺したいと思ったことはありませんか？**

回答	人数	割合 (%)
いいえ	66	81.5
はい	10	12.3
無回答	5	6.2
計	81	100.0

## 2. 調査および授業へのコメントの自由記述

### (1) 調査に対する学生の反応

上述の調査結果（自由記述の内容も含む）は、調査終了直後に集計結果を画面上で表示し、コメントしながら授業を行った。問題行動を行った経験に関する回答も含まれていることから、筆者側からはそのような行為を責めるような態度はとらず、生徒の理解や生徒指導上の対応に重点をおいた形で応答するよう努めた。

これに対して、Table 18 のようなコメントが学生から寄せられた。

教科書や資料などを基にした講義は、多くの学生にとっては現実感がないものになりがちであるが、同じ教室で授業を受けている学生からの情報は、驚きをもって受け止められている。教師として現場に出たときのリアリティショックを緩和するためにも必要であろう。

また、調査の段階では記述がないが、授業のコメントとして記入する場合には、自分の体験などを具体的に書いている学生も存在する。受け身の形で回答するのではなく、回答やコメントが授業に貢献できることを学生が実感することで、より積極的な関与につながると思われる。



Table 18 生徒指導上の問題に関する調査を提示して授業を行った後の  
学生の主なコメント

- 
- ・未成年でタバコを吸ったことがあるという人がいる事に驚いた。自分の生徒がタバコを吸っていたらどのような対応をしてタバコをやめさせるのか考えておきたいと思った。
  - ・授業始めにアンケートをとって結果を見ましたが、自分の学校では暴力行為などなかったので身近に感じませんが、全体的に見ると暴力行為や非行は存在しているのだと思いました。教師に対する生徒のいじめのようなものも存在するということも知りました。教師の給食にダンゴムシや一味を入れていたというのが衝撃的でした。
  - ・今日の調査で、先生を蹴ったりしたことがあるという人の多さに驚いた。私は全くなかったもので、学校、環境によってこんなに違うのかと思った。面白い調査だった。
  - ・今回のアンケートの結果を見ながら、いじめをした人もされた人も居るんだなあと思った。どこからか、笑いながら不登校にさせた等の話が聞こえてきたが、そんな人が教師になるのかあと思うと、なにか残念に思うところがある。させたならさせたで、反省し、気持ちを理解して次に活かすような考えはないのかと思った。
  - ・非行と暴力について、たしかに中学生の頃は反抗したら人に迷惑をかけることがカッコいいと思っていた。自分も警察をおちょくってわざと追いかけられたり、先生に怒られるようなことをしてしまった。教師になったらそのような人たちを指導できるようにしないといけないので自分の経験を生かして、そのような時期だということを考慮して指導できるようにしたい。
  - ・部活動では多々暴力を振るう先生がいた。しかし、そのことについて文句を言う生徒はいなかった。それはチームを思っの愛のある暴力だったからだと思う。今思うとこれは先生が辞めるような問題であると思う。
- 

## (2) 不登校に関する経験と自由記述

不登校に関して、学生自身が体験したことに関する記述を Table 19 に示す。クラスメートが不登校になった体験が多いが、学生本人やきょうだいの体験も語られている。教師の不適切な対応、LGBT の子どもに対する対応、いじめとの関係など、授業で取

り上げる必要のある問題が提示されている。また授業の中では、不登校の生徒の多くは自分が学校にいけない理由を自分でよくわからないことを説明したが、それを裏付けるような体験も出されている。不登校を体験したことのない学生の中には、不登校に原因や明確な動機があるはずだという認識を持っていることが少なくない。このような体験が、より現実に近い理解を可能にしていると思われる。

**Table 19 不登校に関しての学生の体験に関する記述と、  
不登校の授業に対するコメント**

- 
- ・ 学生時代は毎学年必ずどこかのクラスに不登校の子がいた気がします。その子はだんだんクラスの中での存在が薄くなり、誰も関心を示さなくなっていました。そのような状況では不登校の子はより登校しにくく感じるかもしれないと思います。教師のクラス作りが大切になってくると思いました。
  - ・ 私の弟は、中学で不登校になりました。フリースクールに通っていた。今、高校に進学し、たまに遅刻や欠席もあるが学校には行けている。弟が不登校になったとき、弱いからだと思った。嫌なことから逃げてただけだと思っていた。私は、高校は無遅刻無欠席でした。そこからくる、義務感だったんだとわかった。弟にはかわいそうなことを言ってしまった。
  - ・ 私も高校のとき学校に行くのが嫌すぎて休んだことが何回かあります。特に友達関係とかがうまくいってなかったわけじゃないけど、なぜか行きたくなくて、親からもなんどと言われても分からないとしか言えませんでした。
  - ・ 私は、小学校3年生の時に不登校になった。クラス替えの後の5月くらいの結構序盤だった。何故そうなったかという、担任の先生が学校で1番恐れられるほどに怖い先生だったからである。きっかけは、漢字練習帳に三年生にしては簡単な漢字や、ひらがなを多用していたことであった。それをクラスの全員の前で見せられて晒し者にされた感じがしてしまった。それから、学校に行くのが怖くなり、担任の顔をみると震えるくらいにトラウマになってしまった。
  - ・ 高校1年生の1学期とき、席が後ろの後ろにいる女の子が不登校になりました。部活のマネージャーもしたり、活発な子だったので、何が原因かわかりませんでした。2年生にあがる前にその子は学校をやめてしまいました。

- ・私も小学校の時に一時期学校に行けなくなったけど、理由は今でもよく分かりません。いじめられていたわけでもないし、学校に馴染めて無かったわけでもなく、友達も多かったけど何か気持ち的に受け付けなくなった感じでした。今日の授業を受けてこういう人も少なくないんだなって思いました。
- ・私は、中学の頃部活の先輩が嫌いになりすぎて、学校には行けるけども部活には行けないという状態が1ヶ月ほど続きました。これが、不登校に含まれるのかわかりませんが、不登校について知っていく中で、なんとなく共感的に学ぶことができたと思います。不登校の実態を正確には数字で見れないと知って、むずかしい問題なのだなと感じました。
- ・中2のとき男子生徒がゲームにはまって家からでれなくなり学校に来なくなった。不登校になってからその子の友達はみんなよく家にゲームしに行っていたが、学校には全く来なくて、最後の卒業式だけきていた。
- ・中学3年の時、もともとクラスの子からあまり好かれていない子がいた。彼女は3学期末にインフルエンザだと嘘をついて、学校を休んだ。それが気に食わず、クラスの複数の子がラインの一言を「わかってるよ」などの言葉に変えた。すると彼女はそれに気づき、インフルエンザから回復した後、3日ほど学校に来ていたが、それから来なくなった。ラインの事が彼女の親から先生にバレてしまい、その書き込みをした子達と呼ばみ出され、彼女の前で謝らされた。彼女はその謝罪を聞くために、1日だけ登校した。わたしも学級委員長だったので、一緒に謝らされた。
- ・小学校の同級生で、中学にあがってからずっと不登校だった子がいました。元々性格が男の子っぽくて、男友達も多く、かと言って女の子の友達も多かったのですが、中学に上がって制服のスカートを履くのが嫌だったり、他の小学校から来た子達と仲良く出来るか不安で、半年間は全く来ませんでした。幸い私の中学校には「こころの教室」なる、不登校の子達や人付き合いが苦手な子達＋障害を抱えた子が行くクラスがあって、そこに1年の後半から通うようになっていました。学校に行くのが普通な私にはあまりわからない事だったけど、そういったことにも対応したり、理解したりできるようにならなくては…と思いました。
- ・自分の昔のことを思い出した。実際、私が小学生や中学生だった頃、私は不登校気味のクラスの子に、学校に来た日に話しかけて友達になった。その友達は、学校に少しずつ来れるようになって、担任の先生に〇〇さん（不登校の子）と友達になって学校

に出来るのが楽しくなったと言ったそう。それだけ聞くと良い話だが、それからというものの担任の先生は、「〇〇さんをよろしく」と頼んだ。修学旅行の班も私だけ仲の良い友達とは組ませてもらえず、不登校気味の友達と回るように言われた。他にもそのようなことが何度もあった。私には、押し付けのように感じた。その子が、保健室に行くというと、その子の勉強のやる気が足りないとか、気合いが足りないといった偏見を先生が持っていたなと今、振り返るとそう思う。結局、そのような態度があらさまに見えていて、その友達はまた学校に来なくなった。

---

### (3) いじめに関する経験と自由記述

いじめに関する記述を Table 20 に示す。少数ではあるが、いじめの加害経験について書いてくれた学生もいる。書きたくなければ無理して書かなくてよいと繰り返し伝えていたので、書いていない学生も多いのかと思われる。他のテーマに比べて、具体的な被害体験の記述が少ないのは、それだけいじめの被害を振り返ることへの苦痛が大きいことの反映かもしれない。

Table 20 いじめに関しての学生の体験に関する記述と、  
いじめの授業に対するコメント

---

- ・ いじめというか、友達に無視されることが続いたことがあります。
- ・ 無視されたり、部活で号令かけても復唱してくれなかったり、練習中にみんな居なくなったりしました。
- ・ 中学の時に、私と友達の2人でやんちゃをしてたら、先輩に目をつけられて、呼び出されたり、他校の先輩が部活に大勢で来て、妨害したりされた。
- ・ 友達との喧嘩から、無視されたり、文句を言われたりした。
- ・ 友達がいじめられていておかしいと言ったらはずされた。
- ・ 中学一年生の頃仲良い友達と喧嘩して、2ヶ月間グルになって無視された。
- ・ 物を隠す、高いところに置くなどをされた。向こうが遊び感覚でしていたこともあって、最初は楽しくワイワイしていたが、だんだんつまらなくなり、反応しなくなったら、エスカレートした。

- ・部活動の部屋のホワイトボードに「〇〇死ね」と書かれたり、「死ね」や「自殺しろ」ということを書いた手紙を渡されたり、帰り際に胸ぐらを掴まれたりした。上靴を捨てられたり殴られたりもした。
- ・いじめはどうしてもなくならないし、いじめが原因で自殺する人がいるのも現実である。自分の周りでもいじめを受けて不登校になる人もいました。正直、自分もいじめをしたことがあるので、ここまで深く学ぶとなんてことをしたんだろうと改めて思いました。これからはいじめの状況をなるべく減らすためにしっかり学んで、良い教員として、努力を続けていこうと思います。
- ・私もいじめには興味を持っていて卒論でも取り上げようと思っている。正直私はいじめらしいことをしたことがある。友達とふざけあってばかにしていたことがあった。今考えればなんでそんなことしたのだろうと思う。
- ・いじめについて自分は小学生のときに、実際にいじめを受けている生徒と友達でその子は男子生徒から「ぶす、でぶ、消えろ」と言われていた。私はそれを間近で聞いていたけど、何もできなかった。担任の先生もそのことを知っていたけど自分の知る限りでは何も対応をしていなかった。しかし、その子は自殺や不登校にもならず通い続けていた。その子は言われてもひたすら無視し続けていた。自分が担任になったらきちんと対応できるようにしたい。
- ・いじめの件数を見ていじめを学校側も生徒も隠したがることがわかった。高校の時野球部のいじめを学校側が隠蔽したりしているのを見たことがあるし、クラスのいじめを先生が注意せず知らん顔したりしたのを見たことがある。
- ・「いじめは見ている人も加害者」とよく学校で言われていた。その言葉がいじめの発見を遅らせているということに驚いた。仕事もありながら生徒と関わり、目を配らせて、生徒たちの様子を見て、いじめを発見するのには、相当な人数が必要だと感じた。国はこうしろ、ああしろと言うが、こっちの要望はあまり聞いてくれないため、少し腹が立った。
- ・生徒が辛い思いをして、勇気を出して担任に相談したのにそれを最後まで対処しなかったのは今思い出す、私が教師になろうとしている身からして腹が立ちます。
- ・同じ部活動の部員が私からいじめられたと、内容も相当多くの嘘を目の前で述べた。私は三時間ほど個室に入れられ、2時間ぶっ通しで目の前で怒鳴られた。全くのウソの内容で。否定しているのに。いじめの指導で、片方だけの言い分を聞くのはおか

しい。お前らは下手したら人殺しだ！といってくる先生だったから仕方ないなと思って聞き流した。

- ・自分が信じて、一生懸命力を振り絞ってその人だけに相談したつもりだったのに、他の先生や人までに知られていた。
- ・中学の部活の顧問が「いじめられたかもしれないけど、部活をやめるのはおかしい」「やめる必要があるのか」と言ってきた。

---

#### (4) 自殺に関する経験と自由記述

自殺に関する記述を Table 21 に示す。調査では、中学・高等学校において知っている人が自殺したことを知った経験があると回答したのは約 1 割であるが、以下の自由記述を見ると実際にはそれ以上の経験があることがうかがえる。小学校時代や大学入学後の経験も含まれていることで件数が増えている部分もある。

この中には噂として聞いたものも含まれているので、正確な情報ではない可能性はあるとしても、多くの学生は既に自殺の話を聞いているが、自殺予防教育や自殺が生じた後のケア（ポストベンション）はほとんど行われていないと考えられる。

**Table 21 自殺に関しての学生の体験に関する記述と、  
自殺の授業に対するコメント**

- 
- ・友達の父親が、原因不明ですが、自殺をしてしまい友達がすごくショックを受けていた。そして、しばらく学校に来れなくなってしまっていた。
  - ・妹の同級生が自殺をしたという話を聞きました。電車の線路に飛び降り自殺だったらしいのですが、その子は日頃は不登校でたまに学校に来ていたらしいのですが、来た時は元気だったし明るかったらしいです。
  - ・自分が中学生の時に、同じ中学校出身の 4 個くらい上のバスケ部の男子の先輩がマンションから飛び降り自殺をした。その先輩は友達のお兄ちゃんと同級生で、その時来ていた教育実習生の弟だった。
  - ・中学生のころ受験に失敗をした先輩が踏切に飛び込み自殺をした。そのあと全校集会が体育館で開かれて自殺についての話を先生から聞いた。

- ・私は親戚が借金で首が回らなくなったそうで、一家で自殺しました。私がまだ小学生だった頃なので何かこれといって覚えていることがあるわけではありませんが、借金を抱えたことから、生きることが辛くなっていたそうです。
- ・自殺について、昨年私の友達の弟が自殺をしました。詳しい原因などは分かりませんが自殺をした前日は友達とご飯を食べに行っていたものと変わらない様子だったと聞いています。
- ・小学生の頃近所でよく遊んでくれていたお兄ちゃんが中学に入ってから、クラスでいじめられて庭の木で首を吊って自殺した。
- ・近所の人が自殺したことがある。飛び降り自殺だった。
- ・小学校の時友達が自殺しかけた。理由はよくわからなかったがあの時の雰囲気は忘れられない。
- ・友人などが自殺したことはないが、恋人に振られてリストカットして自殺しようとしていた人はいた。
- ・自分の知り合いが自殺をして亡くなりました。理由は人間関係でした。最後にツイッターで言葉を残して亡くなりました。冗談だと思ってたけど自殺したと連絡があり、もっと出来たことがあったらと思うばかりでした。
- ・二つ上の先輩で、いじめられているようには見えなかったけど、自殺したということの後から聞いた。
- ・中学生1年生の時に、3年生が海に飛び込んで自殺したという話を聞きました。その人はいじめられていたわけでもなかったそうです。
- ・高校の時の一つ下の学年に自殺した人がいて衝撃でした。
- ・母が自殺未遂しました。
- ・友達のお父さんが自殺しました。
- ・自分の周りに自殺をした人がいるが、いつも笑顔でいた。部活の後輩であったが、周りで何かあったようなことは無く、考え直しても該当するような出来事はなかった。
- ・同級生の妹が駅で飛び降りて、電車で跳ねられ自殺しました。その日は、校外研修に行く予定だったらしいのですが、その子は、いつも通り何も言わずに家を出て行ったそうです。
- ・友達がリストカットを深くまでして精神科に通っている状態を見たことがあります。苦しんでいると分かっているけどどう声をかけていいのかわからないため、手助けがし

にくいと感じたことがあります。

- ・会社員になった友人から「辛くて死にたい」と相談を受けていました。辛い時にはよく現実逃避したがる友人ですが、今回の相談はいつもと違う雰囲気で、今にも本当に自殺を図ってしまいそうでした。
- ・今日の授業を受けるまで教師になって、生徒がいじめにあっている時、生徒が自殺するのではないかと察した時に、自分1人で解決していたかもしれない。しかし、専門家に相談するという選択肢があることを知って、自分1人で解決しようとしなくていいことがわかった。
- ・自殺のリスクを治療によって減らすことができるのは知らなかった。また入院することが可能とも知らなかった。
- ・自殺したいと思ったことはあるけど、今は死にたいと思いません。授業の初めのアンケートでは、自殺は最終手段だと書きましたが、死にたいという気持ちは一過性であることを感じました。
- ・母校にも、以前自殺した人がいて、自分の周りにも自殺した人がいて、身近に居る分、今回の講義は辛かった。教員になれずとも、自殺願望を抑制できるように、声をかけたり、しようとしていたりしている人がいたら、全力で止めようと思った。
- ・友達のお兄ちゃんが自殺してしまい、それを私に話してくれたことがありました。私のことを信頼してくれて話してくれたんだと思います。その時自分がどんな言葉をかけたのか思い出せませんが、話してくれてありがとうと伝えた気がします。そういった辛い経験を乗り越えて頑張って強く生きている人もいるから、私も頑張ろうと思いました。嫌なことがあってものりこえていきたいです。辛いことがあったらそれを話せる友達に話したいと思いました。
- ・私の母の親友が自殺したことを思い出した。母は辛そうにされていて、幼かった私が親友についてきくと辛そうにもう聞かないでと言われた。今だったらきっとそんな事は聞かないであろう。あの頃の私の行動を思い出すと胸が痛い。自分がその様な立場になった時、どう対処しただろうか。また、どう対処すべきだったかを考えたい。
- ・父親の親戚が先週自殺をしました。その人は自殺するような前兆もなくいきなり自殺をしたと父親が言っていて、何も言えませんでした。



#### (5) 体罰に関する経験と自由記述

体罰に関する経験を聞いたところ、多数の回答が得られた（Table 22）。その中には、問題行動などへの懲戒としての「罰」ではなく、理不尽な暴力も数多く見られた。

特にスポーツの指導の中で、教師や指導者が、問題行動ではなくパフォーマンスの悪さに対して暴力をふるっていることが、未だに数多く行われていることがわかる。また、そのような暴力が当然視されているように感じられる記述も多い。

Table 22 体罰に関しての学生の体験に関する記述と、  
体罰の授業に対するコメント

- 
- ・バスケのプレーが悪くて倉庫に呼び出されて殴られていた。
  - ・部活動での体罰。怒鳴りつける（暴言）、どつく、ビンタ、ボールを投げつけるなど。よけたら、さらに怒られる。
  - ・連続ビンタでコートの手前で追いやられる（友人）
  - ・部活の先輩が万引きをした時に、顧問の先生が頭などを手の平で叩いていたのを見ることがあります。
  - ・部活動の顧問の先生がチームメイトを4発平手打ちしているのを見ました。勿論唇は切れて腫れ上がり血も出ていました。
  - ・男の先生にお腹を触られたりした。
  - ・男子3人が前に立たされてビンタをされていました。
  - ・自分は受けてないが、小学6年生の頃にクラス担任が言うことを聞かない児童を別の部屋に連れて行き、腹部を叩いていた。
  - ・部活動中に友達がお腹を殴られたりボールを投げつけられたりしていた。
  - ・クラスの人が授業中に胸ぐら掴まれながら平手か拳かは見えなかったが数回殴られました。あと、髪掴まれてました。
  - ・学校の先生からはないけれど、クラブチームでほこほこに頭とかグーで殴られたり、髪引っ張られたりしてました。
  - ・私は女子だったこともあり軽くすみましたが、一緒に問題行動を起こした男子2人は、夏ということもあり、プールに沈められていました。悪いことをしたとはいえ、男子に対してはひどい体罰だと思いました。

- ・部活動の顧問から蹴られた。
- ・強制坊主。
- ・おそらく、弟に悪い所があったのだと思いますが、先生がキレて弟の頭を窓ガラスに打ち付けたという事を聞きました。弟はたんこぶくらいで済んだんですね。
- ・理科の実験中に器具が偶然壊れてしまいその班のみんながビンタを受けた。
- ・社会的マナーや、常識から考えて悪いことをして学校の先生に個室に呼び出され、自分が座って話を聞いていた時に、その椅子を蹴られて自分と椅子が壁までスーッと進んでいき、壁に打ち付けられた。椅子が回るタイプで車輪があるものであったため、死にそうになった。
- ・忘れ物をした人にビンタを数発していた。
- ・叱るときに必ずビンタをする先生がいた。
- ・みんなと走っていて、順位が遅かったので1人だけ余計に走らされた。
- ・チームメートが悪いプレーをした時にコーチが殴ったり蹴ったりした。
- ・野球の試合や練習で悪いプレーをして平手打ちをくらった。ミスをした時に暴力を振るわれたが、全て自分を想ってのことだと理解したから体罰とは思わない。暴力を振るわれて訴えてやろうなどと考える人は1人もチームの中になかった。
- ・小学校のサッカーのクラブチームで友達が体罰を受けていたのを見たことがある。円になって集合した際に悪いプレーをした選手をみんなの前で頭を叩いたり、蹴りをいれたりしていた。
- ・部活中に友達が過呼吸になった時、過呼吸は気持ちの問題だからとそのままラントレをさせられ続けていました。
- ・私は中学の頃授業中に先生に何回もビンタされた。
- ・私は中学生の頃、部活動の外部コーチ（1人は経験者コーチ、1人は経験無しの学校PTA会長）から、暴力を受けていました。その内容としては、なにもしていないのに、ただ理不尽に暴力を振るわれるだけでした。試合に出ていない（なにながあっても出してもらえなかった）のに、「お前がいるせいで負けた」などと殴られ、試合に行かなかったら「来ないやつに用はない」と殴られ、酷い時には体育館にさえも入れてもらえず、猛暑の中ロードワークばかりさせられていました。最終的には、強制退部に追いやられました。
- ・提出物を出すのを何回も忘れていたり、先生に反抗していたら隣の空き教室で殴られ

ていた友達がいた。

- ・中学校の時に職員室で吹っ飛ばされた。
  - ・正座を1時間させられた。
  - ・友達が髪の毛が地毛なのに染めてると言われて引っ張られていた。
  - ・背負い投げされて大怪我をした人もいた。
  - ・不機嫌な時に痛に障ったのか理不尽に怒られて廊下に正座させられた。
  - ・中学の時にバレー部の顧問がバレー部のキャプテンである女子生徒を何度もビンタしていたのを目の前で見た。後でその女子生徒と話をしたが、口の中が血だらけになっていた。
  - ・中学校の部活動の時に動きが悪いと、指導者に正座をさせられてビンタをされたことがよくあった。また、高校時も同じような理由でビンタをされることがよくあった。
- 

#### IV. まとめ

授業における口頭での発問やミニッツペーパーの読み上げを、電子的な手段に置き換えただけの工夫であったが、筆者の予想以上に学生の積極的な授業への関与が得られた。教職課程の授業であり、この授業の翌年には多くの学生が教育実習に臨むことを考えると、生徒指導上の諸問題への理解と対応が現実的なものと感じられたのであろうが、これまでの同様の講義と比べても、学生の反応が大きいと感じた。

教師の体罰やスポーツ指導上の暴力は、社会的に大きな問題と認識されていないのかもしれないが、他の生徒指導上の問題と並んで緊急に取り組むべき課題であることが再認識された。単に教師やスポーツ指導者の倫理の問題では済まされない重大な人権侵害である。

生徒指導は、生徒の問題行動にどう対応するかが中心になりがちではあるが、本稿をまとめるにあたって、改めて学生の記述を読み返してみると、むしろ教師自身の問題行動や不適切な対応をどのようにコントロールし、教師自身のストレスマネジメントやメンタルヘルスの維持に重点を置く必要があるのではないかと感じた。

## 文献

文部科学省 2018 平成 28 年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」(確定値)について 文部科学省初等中等教育局児童生徒課.